

スポーツ科学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する学識を修め、人間性豊かなスポーツ指導と健康づくりの能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（スポーツ科学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 豊かな人間性と社会性の基となる幅広い教養を有し、スポーツ科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。
- (2) スポーツ科学に関する実践的知識・技能を修得し理解している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) スポーツ現場のさまざまな課題に対して、スポーツ科学に関連する研究方法を用いて考察することができる。
- (2) スポーツをはじめさまざまな場面において、自ら判断して科学的・体系的に指導することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) スポーツ科学に関する課題を探究し、主体的・継続的に学修することができる。
- (2) 社会の一員として自分の役割を自覚し、与えられた課題に対して挑戦力、問題解決力、及び行動持続力をもって対処することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 多様な社会のニーズを理解し、人間がもつ様々な能力を理解し、尊重することができる。
- (2) 本学の理念（多文化共生）に基づき、多様性を認め、地球的規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力、コミュニケーション能力を発揮し、多文化社会における諸問題の解決に貢献できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 1 年次には、必修科目のスポーツ科学概論、生理学や解剖学などを通してスポーツ科学の基礎を学修し、2 年次以降でスポーツ科学の専門的な各種分野を、3 年次には各演習科目およびゼミナールにおいて専門的に学修する。
- (2) 実技科目として、1 年次には陸上競技、水泳、器械運動を必修とし、2 年次では各種球技系科目（基礎）を学修し、3 年次の各種球技系科目（発展）さらにはコーチングへと発展させる。
- (3) 外国語科目として英語を 1～2 年次において必修とし、加えて中国語、韓国語、フランス語及びドイツ語の中から 1 つを選択することにより、外国語教育を通して、異文化の理解に加えて自国の言

語や文化を客観的に見直すとともに、バランスのとれた国際感覚を養う。

- (4) 専門科目とは別に、1 年次の「フレッシュマンセミナー」を通じて大学生として身につけてほしい基礎的な能力を養い、2 年次には「スポーツキャリアセミナー」により各自の進路について考え、目的を達成するために自ら行動する能力を育成する。
- (5) 4 年間を通じて、全学共通科目を履修することにより幅広い教養を修得する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、特に講義系の専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- (2) 3 年生～4 年生においては、ゼミナールを選択でき、より主体的な学修に取り組む。特に 3 年生では、スポーツをはじめとしたボランティア活動への参加を積極的に推奨する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、スポーツ科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 4 年間の総括的な評価として、卒業時の学生によるアンケート調査によって評価する。
- (3) 教員採用試験受験者に関して、教員採用試験の結果は 4 年間の学修の明確な成果とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ科学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) スポーツ科学を学ぶための十分な基礎学力及び実技能力を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 自己の考えを明確に表現し、他者の意見を素直に聞くことができる。
- (2) 課題に対して論理的に考察することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) スポーツ科学、スポーツ指導に強い関心を有している。
- (2) 社会の諸課題に対して自ら学ぼうとする高い学習意欲を持ち、継続的な努力ができる。
- (3) 人と人のつながりの重要性を理解し、他者を積極的に理解しようとする姿勢をもっている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3 教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試)	英語民間試験結果	●		
総合型選抜 (自己推薦 (専願型))	課題	●	●	
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (スポーツ)	調査書	●		
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		
	小論文		●	●
	個人面接		●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	調査書	●		
	個人面接		●	●